

# 指導のポイント ～授業づくりの参考に～



平成23年7月  
島根県教育庁義務教育課

## 本資料について

平成23年度学習意欲を育む学級集団づくり事業において、各学校でアンケートQ Uを活用し、学力向上の基盤となる学び合い高め合う学級集団の育成及び安心して学校生活を送ることができる学級づくりを推進していただいているところです。

教師の観察やアンケートQ U結果の分析等により、学級集団の状態に応じた取組を各学校で実施する際の、特に授業における取組の参考資料として「指導のポイント～授業づくりの参考に～」を作成しました。

本資料の学級集団の分類は、アンケートQ U結果の分類で使用されるものを用いており、授業のポイントはそれぞれの集団に有効であると考えられるものを参考として示しています。取組を考える際には、各学校で実態に合わせて工夫・改善をしていただきますようお願いします。

本資料を活用した取組として、次のような手順の例が考えられます。

- ①学級集団の状態が、次のどの状態に近いのかを確認する。
  - 「まとまりのある集団」
  - 「かたさの見られる集団」
  - 「ゆるみが見られる集団」
  - 「荒れ始めの（荒れた）集団」
- ②授業のポイントを参考にして、当該学級集団への取組を考える。
  - ・複数の教員で考えを出し合い、取組を考える。
  - ・学級担任、教科担任等の個性や強みを踏まえながら取組を考える。
- ③②で考えた取組を学年等で共通理解し、チームでの対応が行えるようにする。
- ④取組を実践し、当該学級がより学び合い高め合う学級集団となるように取組を修正する。
  - ・複数の教員で考えを出し合い、取組の修正を行う。

なお、授業の充実にあたり、次の資料も有効に活用していただきますようお願いします。

- 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校）
- 評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校）
- 総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校）
- 総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校）

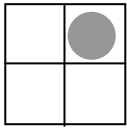
[掲載アドレス]

URL <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>

(国立教育政策研究所Webページにリンク)

※本資料の作成にあたっては、以下の書籍等を参考にしております。

- 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）』中央教育審議会（2008年）
- 『授業づくりゼロ段階[Q-U式授業づくり入門]』河村茂雄 著（2010年）図書文化社
- 『授業スキル学習集団に応じる授業の構成と展開小学校編』河村茂雄・藤村一夫 編集（2004年）図書文化社
- 『授業スキル学習集団に応じる授業の構成と展開中学校編』河村茂雄・粕谷貴志 編集（2004年）図書文化社
- 『学級タイプ別繰り返し学習のアイデア小学校編』河村茂雄・上條晴夫 編集（2006年）図書文化社



## まとまりのある集団

### この集団の特徴

- ・授業に取り組むルールが確立されており、指示をしなくても活動を進めることができる。
- ・子どもたちの集中力が高く、活気がある。
- ・安心して自己表現をすることができるので、子どもたちの発言が多い。→考えを交流するなど、学び合いができる。
- ・多様な形態で学習することができる。また、応用・発展的な活動に取り組むことができる。

### 授業のポイント

#### ○言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を育成する。

- ・子どもたちの興味・関心を喚起したり、思考を深めたりするような開かれた問いを多くする。
- ・以下のような学習活動を積極的に行う。

##### ① 体験から感じ取ったことを表現する

(例) ・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する

##### ② 事実を正確に理解し伝達する

(例) ・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する

##### ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

(例) ・需要、供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす  
・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する

##### ④ 情報を分析・評価し、論述する

(例) ・学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する  
・文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、A4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する  
・自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする  
・自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する

##### ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

(例) ・理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする  
・芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する

##### ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

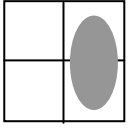
(例) ・予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う  
・将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる

#### ○かかわり合いを広げ、深める。

- ・いろいろな人とグループ活動を経験させ、考えや思いを交流させる場を設定する。
- ・さまざまな役割(リーダー、フォロワーなど)を体験させる。

#### ○委任的な面を多くする。

- ・子ども主導の部分が多くし、自主的に活動できる場を多く設定する。
- ・ルールと評価を子どもたち自身で設定させる。



## かたさの見られる集団

### この集団に生じやすいこと

- ・学習意欲・活動量の差。満足感の高い子どもとそうでない子どもの二極化。
- ・失敗を恐れ、発言ができない。発言する子が限られ、考えの交流が難しい。
- ・子ども同士の認め合いが少ない。人間関係が希薄。
- ・静かに授業は展開するが、教師の指導に対して受身で、学習課題に積極的に向き合っていない。

### 授業のポイント

#### ○多くの子どもが取り組めることを設定する。

- ・子どもたちが学習活動の目的をもてるようにする。（「やらされている」「仕方なくやっている」という思いにさせない。）
- ・導入時に興味を喚起する。（具体物や資料の提示など。）
- ・課題のやり方を具体的に説明し、見通しをもたせる。
- ・多くの子どもが思考できるような発問をする。

#### ○複数の活動・要素で授業を構成し、リズムとメリハリをもたせ意欲を高める。

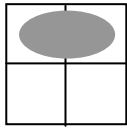
- ・活動型の展開を授業に取り入れる。（班での調べ学習、グループディスカッションなど。）
- ・ゲーム的要素を取り入れ、活動する楽しさや友達とかかわる楽しさを体験させる。
- ・作業的な活動を取り入れる。（短時間での練習問題、プリントの空所に要点記入など。）
- ・ICT機器を用いた活動を取り入れる。

#### ○すべての子どもが認められる場面を設定する。

- ・子ども同士で認め合う場面を設定する。
- ・発想の面白さ、地道な取組、ユニークな取組など多面的に評価できる場面を設定する。（隣同士、小グループでの話し合い。教師から全体への多面的な評価。）
- ・机間指導で、目立たない子に個別に言葉がけをする。（「丁寧にノートをとっているね」「しっかり問題に取り組んでいるね」「わからないところはないかな」「いい考えだね、みんなに発表してくれないかな」）→見守っていることを言葉で伝え、学習意欲の喚起・向上を図る。

#### ○教師の思いや考えを自己開示する。

- ・チャレンジする意義を、場面をとらえて具体的に説明する。
- ・教師自身の失敗談、学習面で苦戦したことなどを積極的に自己開示し、子どもとの心の距離を近づける。



## ゆるみの見られる集団

### この集団に生じやすいこと

- ・授業展開のルールが確立されず、なれ合いの状態が生まれやすい。→学習意欲や活動量の低下。
- ・子ども同士が小グループで固まり、全体としての活動が展開しにくい。
- ・人の意見が聞けなかったり、冷やかしが多くなったり、特定の子やグループが自己中心的な発言をする。
- ・一見活動的に授業は展開するが、場当たりの活動になりがちで学習が深まらず、学習課題にせまることができない。

### 授業のポイント

#### ○授業に参加するルールや学習活動のルールを定着させる。

- ・活動前に短くルールを確認する。ルールに沿ってできたかを活動後に評価する。
- ・ほめる形でルールの定着を図る。(できていない子どもに注意を向けるのではなく、きちんと取り組んでいる子をほめることで、その行動や態度を周りの子どもに模倣させる。)

#### ○短時間で明確な指示をする。

- ・学習の「内容・目的・方法」を明確に示し、子どもに意識させる。
- ・説明を短くし、やり方のモデルを示したり、やり方のわかる掲示物や完成品を見せたりする。
- ・複数の指示方法を同時に活用する。(言葉による説明、カードによる方法の指示・やり方も書かれたプリントなどの活用。)

#### ○「型の設定」「決まった手順の活動」を取り入れ、メリハリとリズムをつくる。

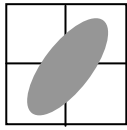
- ・授業展開の型を定着させる。
- ・挙手、質問の仕方、発言とその反応の仕方などの型を定着させる。
- ・活動の始めと終わりをはっきりさせる。(素早いスタート。きちんと完結。)

#### ○時間を設定し、一つの活動をやりきらせ、意欲と集中力を向上させる。

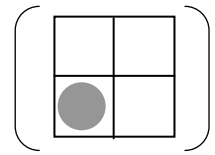
- ・短時間の活動ややりきったという目安が明確になった活動を設定する。
- ・授業の終わりに、本時の学習のポイントや取り組んだことを教師が全体に対して確認する。
- ・成果を形にして、努力を実感させる。(作品をデジカメで撮る、取り組んだプリントをきれいに綴じる等。)

#### ○子どもたちと心理的距離をとり、なれ合いを払拭する。休み時間と授業の区別をはっきりさせる。

- ・授業の最初と最後の挨拶をきちんと行う。
- ・こどもの発言に対して丁寧語で受け答えをし、子どもの教師に対する秩序を構築する。
- ・発言のルールを守っている子どもの意見を取り上げる。



## 荒れ始めの（荒れた）集団



### この集団に生じやすいこと

- ・私語、身勝手な行動、妨害行為があり、授業に集中できない。
- ・まじめに取り組みたい子どもたちも、級友の目を意識して、学習に素直に向かえない。
- ・一斉指導が成立しない。（子どもたちが授業のルールを意図的に無視する。）
- ・学習内容が定着せず、次の単元に進めない。（特に積み上げる形の教科の遅れが大きくなる。）

### 授業のポイント

#### ○学習を保障するために、個別学習の割合を高くする。

- ・作業的な活動を取り入れる（短時間での練習問題、プリントの空所に要点記入など）
- ・子どもの学力や興味・関心に応じた数種類の学習プリントを用意する。
- ・取り組んだ内容や積み重ねが一目で分かるようにファイリングさせる。教師のプラスのコメントを添え、指導の正当性を個別に確立していく。
- ・問題数の少ないワークシートを用い、枚数をこなして達成感をもたせる。

#### ○ルールを意識させ、ルールを定着させる。

- ・最低限の守るべきルールを子どもと一緒に決定し取り組ませる。（教師からのルールの押しつけではなく、正常な授業を望む子どもが集団内に存在することを意識させる。）
- ・ルールに沿った行動を短くほめ、全体にその行動や態度の定着を図る。
- ・授業の最初と最後のあいさつを型どおり行う。（しっかりやる子どもたちが増え、多数派になることを目指す。）

#### ○学習内容や活動を明確に、展開をシンプルに。→やり遂げる意識をもたせる。

- ・教師の指導に従って子どもが活動することにねらいをしばった展開を行う。「学習活動の説明→個人作業→提出（評価）」という流れを取り入れて、子どもが静かに取り組むパターンを定着させる。
- ・説明を短くし、モデルを示す。活動方法の提示をカードやプリントで行う。
- ・一つの指示で一つの活動をさせる。説明の追加をしない。

#### ○個別対応は短く、授業を確実に展開する。

- ・逸脱行動をする子どもに短く注意をし、学習することを促す。変化が見られない場合は、休み時間等に個別に話を聞くことを本人に約束するなどし、今は授業を進めることを本人に伝える。
- ・教師一人で対応が難しい場合は、チームで連携する。